

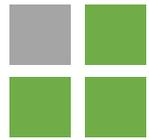
元興寺塔跡を支える人々と 課題への取り組み

2024年6月29日

井辻 敦雄



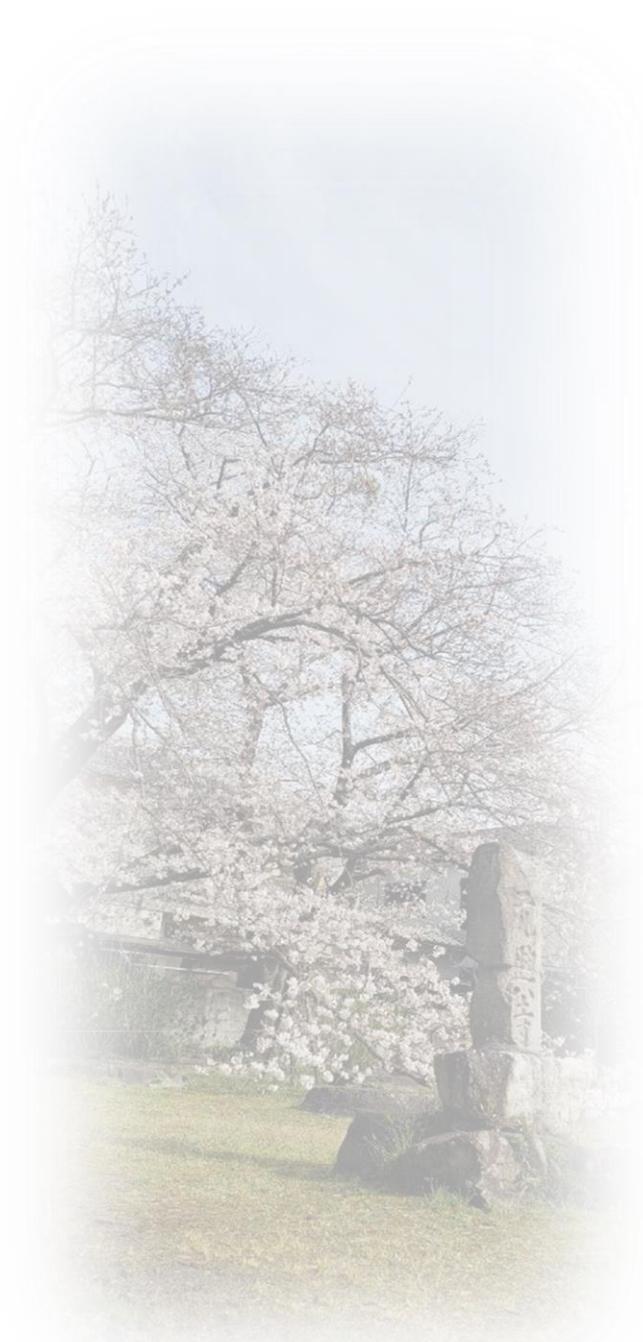
寺興元都南

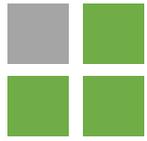


本日のポイント

- 元興寺塔跡と歴史上関わって来られた方々を今一度振り返り、時代を超えて地域の課題に取り組む姿を参考にしていただけば。。。。
- 昨年（2023年）夏からの塔跡の整備体制づくりの紆余曲折、様々な課題や改善に向けての取り組み、考え方を共有できればと思います。
- プレゼン後は、皆様からの自由意見を賜り、未来に向けての活動のヒント・アイデアを賜れば幸甚です。

由 緒





八世紀の創建当時の元興寺大伽藍の一部

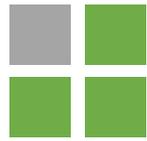
がんごうじ
元興寺

観音堂

大塔

元々は法相宗

元興寺は6世紀末に蘇我氏の氏寺として飛鳥に建立された飛鳥寺を712年に移建したものです。

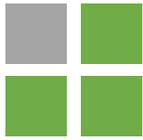


五重大塔 Five-story pagoda

- 高さ16.3丈（約49.4メートル）とされる
- 奈良時代の建立、鎌倉時代に大修理
- 安政六年（1859年）、東の民家からの出火、延焼で焼失
- 昭和七年、塔跡（十七の礎石）は国の史跡に指定

礎石がすべてそのまま残っている塔跡は全国でも希少とのこと



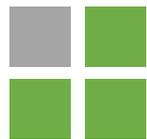


【参考】大塔焼亡のリアルな記述

- ・安政六年二月二十九日午前一時頃・・・毘沙門町の町家三軒が激しく燃えていた。。。
- ・**璉城寺の僧「了融」**は、塔内に駆け込み、薬師如来を運び出そうとしたが・・・像に抱きつき、「尊像よ、火災から逃れる思し召しあらば、早く我らが肩に取り付き給え」と一心に祈りながら・・・

元興寺大塔焼
 安政六年二月二十九日午前一時頃、毘沙門町の町家三軒が激しく燃えていた。この時、璉城寺の僧了融は、塔内に駆け込み、薬師如来を運び出そうとしたが、像に抱きつき、「尊像よ、火災から逃れる思し召しあらば、早く我らが肩に取り付き給え」と一心に祈りながら、火の中に身を投じた。この時、了融は、塔の壁にしがみつき、火の炎を避けて、塔の頂上まで上り、塔の頂上から身を投げた。この時、了融は、塔の壁にしがみつき、火の炎を避けて、塔の頂上まで上り、塔の頂上から身を投げた。この時、了融は、塔の壁にしがみつき、火の炎を避けて、塔の頂上まで上り、塔の頂上から身を投げた。

手塚古今史料「元興寺」
 元興寺大塔焼亡記録
 并相撲番附



観音堂（中門観音像）の伝承

- 元興寺僧が千日の間、毎日長谷寺に参詣したが、その期間中に長谷寺は火災で焼けた。
- 焼け跡の灰の中に《十一面観音の》頭の上につけられた仏の面が、厳かに損なわれることなく残っていた。
- その僧はその面を元興寺に持ち帰り修復し奉ったが、その後も靈験あらたかたで、僧も俗人も絶えることなくお詣りしている。行をするものが六十余人いて、中門衆と呼ばれた。

出典：平安時代の『七大寺巡礼私記』

孝謙天皇の本願で聖武天皇並びに光明皇后の菩提のために、長谷寺観音の余材をもって彫刻されたと伝えられる

現在の十一面観音像（重要文化財）は鎌倉時代のものであり、奈良国立博物館に寄託中

出典：「元興寺とならまちの建築・美術」(清水和彦)

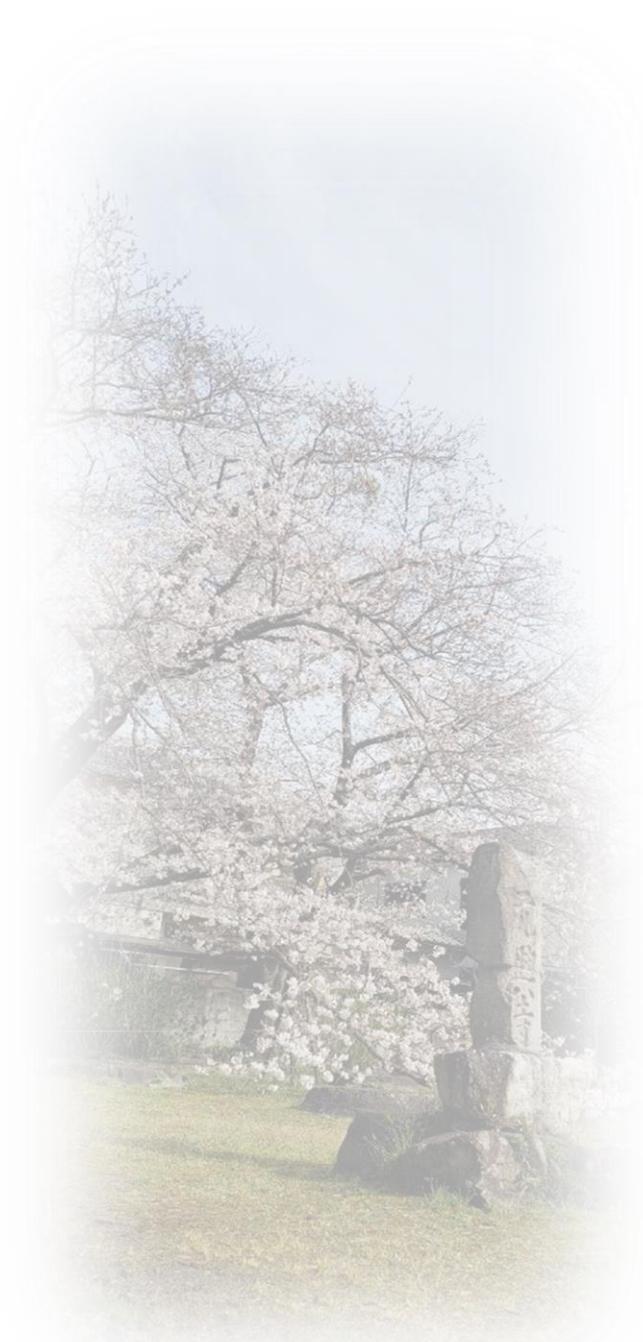
当寺を再興した水野圭真氏



- 1885年大阪生まれ。紡績会社勤めの後、38歳で得度。
- 1929年、43歳にして東大寺の清水氏に弟子入りし、華嚴宗僧侶となり、歴代管長が住職を兼任していた元興寺を任される。

- 翌年から本堂を修復、庫裏改修、鐘楼整備、本堂弥勒菩薩造立を進める。
- その後、東大寺末寺の隔夜寺や金龍寺の住職を兼務、両寺の本堂を新築・復興。

■ ■ 仏像・寺宝

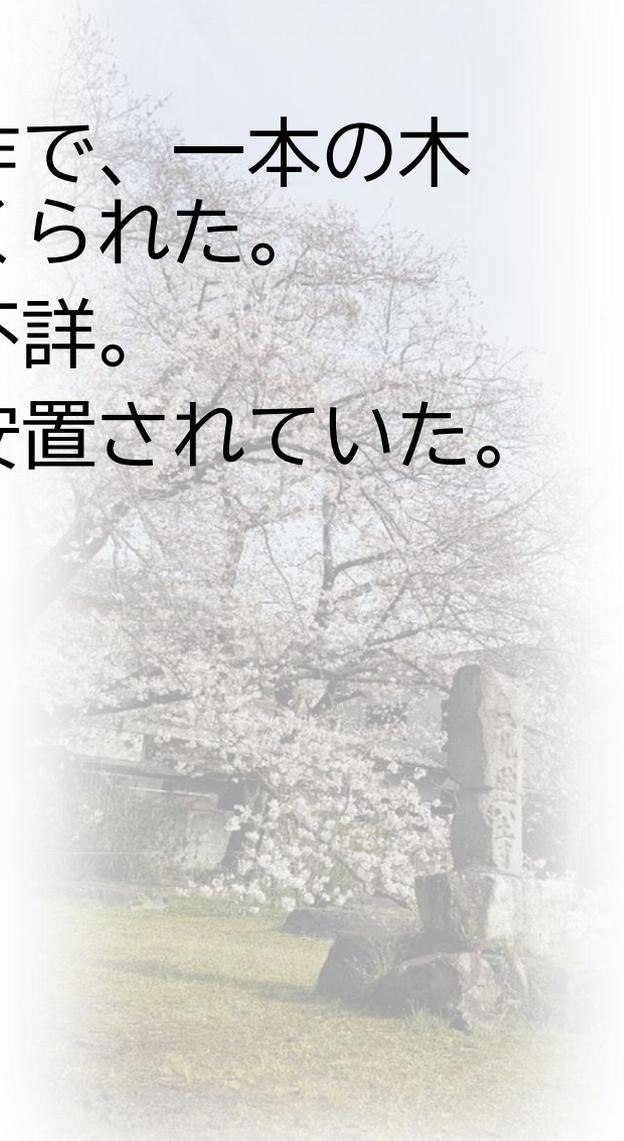


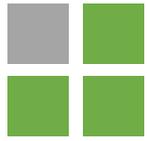


国宝 薬師如来立像



- 平安時代初期の作で、一本の木からの彫りで作られた。
- 作られた縁起は不詳。
- 当初は、大塔に安置されていた。



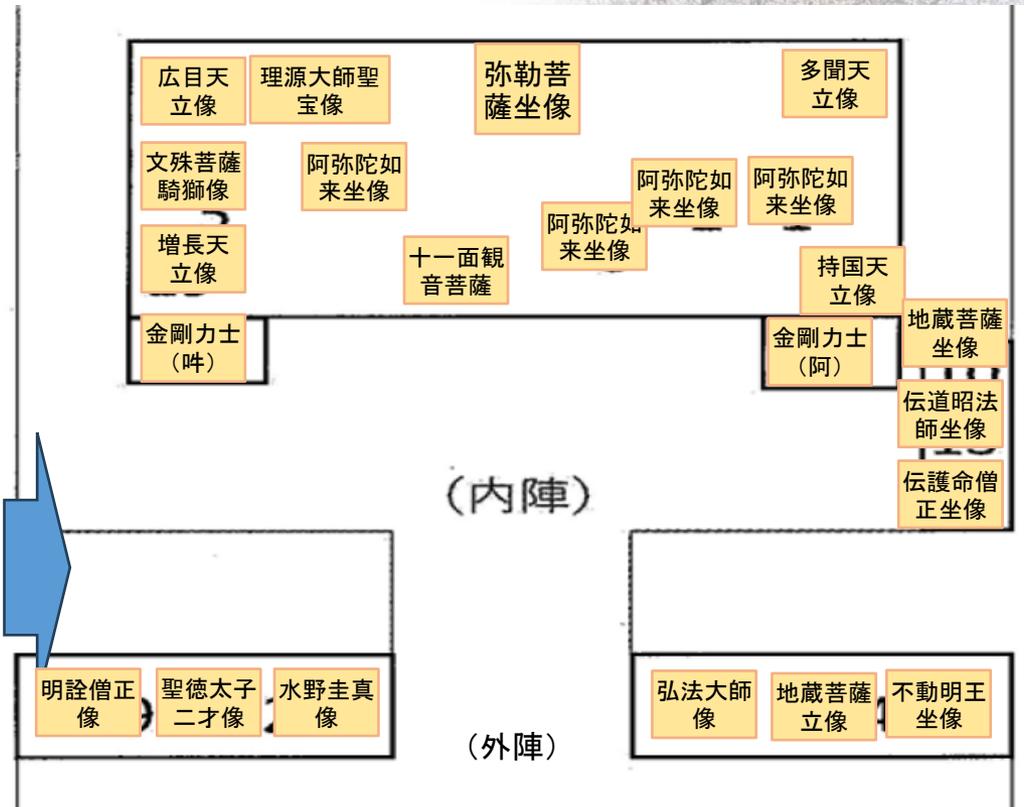


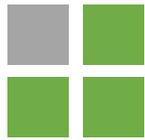
本堂 弥勒菩薩坐像（本尊） および諸仏



- 五重塔北の、元観音堂が現在の本堂であるが、本尊は弥勒菩薩となっている。
- これは、奈良時代元々「元興寺金堂の本尊が弥勒菩薩であったから」という理由である。
- 元興寺を再興した水野圭真師の「ここが元興寺である」との思いゆえであろうか。

本堂内の諸仏様の名称と位置です。詳細は、冊子「元興寺文化財研究所 彫刻報告書」抜粋をご覧ください。





靈宝 八雷神面

八雷神面

室町時代
木造彩色 高さ50.5cm
奈良国立博物館 寄託



元興寺の鐘樓に夜ごと現れる人食い鬼を退治した道場法師。八雷神面はその鬼と闘った時の道場法師の形相を写して作らせた神面で、寺宝として疫病疫難、雷火の難、邪鬼を払うと言ひ伝えられている。

九世紀初めに書かれた『日本霊異記』によると、敏達天皇（五七〇〜五八五）の時代、尾張の国で雷鳴とともに雷の子が農夫の前に落ちてきた。その雷の子は農夫に「自分を助けること引き換えに子どもを授ける」と言い、天に帰っていった。その後農夫が授かった子どもは、頭に蛇をまとい、大変な怪力の持ち主であった。この力量は推古天皇に召され、元興寺の童子となる。これが後の道場法師で、元興寺の鬼を退治したと伝わる。

- 鐘樓に夜な夜な現れる人食い鬼を退治した、道場法師を人格化し、作られた面
- 疫病疫難、雷除け、邪鬼払いのご利益として、古くより当面の凶柄が当寺の護符として授与されていた。



寺興元都南



500円

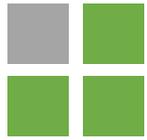


裏 表

江戸時代の護符版木から図柄をそのまま版に起こし活版印刷のカード型御守りにしました。

600円

八雷神面御守護



啼き燈籠



延享年間(一七四四～一七四七年)今の丸呉服店その頃京の伏見に下村家(今の丸)あり

代りの燈籠を奉納して古燈籠を申請して自宅に運ぶ

尔来夜每家鳴り震動して家人怖れを為し

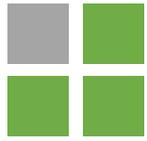
その音を聞くに燈籠より発したれば

元の如く此所に安置したりと伝ふ

啼燈籠の謂われを持つこの石燈籠は、円柱に**正嘉元年(一二五七)の刻銘**があり、市内で年号が刻まれたものとしては第二位の古い貴重な遺品で、戦前には重要美術品に認定されていた。

ところが石面が焼けてもろくなっていたため、昭和十九年の大地震で倒壊し、細かく割れたまま境内に片付けられていた。

平成二十二年春、六十六年ぶりに元の姿に修復された。



塔跡庭園 花暦 (目安)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
蠟梅		ユキヤナギ 沈丁花			アジサイ			酔芙蓉			
千両	ツバキ	桜	芍薬		ハルシャギク				金木犀		
サザンカ		レンギョウ	チューリップ		花菖蒲		サルスベリ	萩			
	スイセン		牡丹					彼岸花			

実際の開花時期を今後確認して、花暦を更新し、また、お手伝いいただける方々と共に季節の手入れや管理を再開していきたいと思っております。



代々住職系譜図

いつ頃塔跡寺域が東大寺管理下に入ったかは
所説あり不詳。



代々東大寺のトップ(管長)が住職を兼任



水野圭真氏が住職となる。(1929)



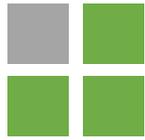
池田圭中氏→東大寺管長→前田圭立氏



池田圭俊氏が住職を引きつぐ。



池田圭誠氏(東大寺練行衆)が住職代理として塔跡を管理



住職・管理者としての思い

- 前管理者の努力してこられた「花の豊かなお寺」を引き継ぎ、自然の様子を残しつつも、綺麗に整備された境内を維持できればよい。
- また、静かで落ち着いた空間として、人々に気軽にお参り頂き、リフレッシュして帰って頂ける場所になればよい。
- (現状) 檀家のない、信者のない、法要も特段行うことのない、そんなお寺であればこそ出来ることがあれば、チャレンジするのも良いのではないか。
- 勿論、元興寺の歴史・威厳を損なうことのないものがふさわしい。

現管理者 池田圭誠住職代理のお話を動画でどうぞ





課題の考察





当初の課題（2023年8月）

隣接している居住者＝自治会会員の懸念となりそうなことを確認し、相談

- 自然な地肌の庭に多くの草木が生育していて、隣接住宅にナンキンハゼやツタが侵入。スズメバチの巣もできている。
- 居住者が不在となり、常時開門不可、かつ防犯防火上も心配
- 閉門により地蔵盆もできない。

隣接町自治会長で相談するも一部の方は。。。。

こういう問題は地域の問題ではなく、個人間で解決すべきこと。自治会でやることではない。



自治会としてではなく、自治会で回覧して有志を募るのならOK



ボランティア協力依頼の回覧は、半分強制されているように感じる！



隣接住居のなかには、昔境界問題などで揉めたところもあるので回覧は回したくない。



自治会と有志での対応範囲の違い(たたき台)

自治会としての関与(たたき台)

自治会関連とりくみ

自治のための重要な活動

- SS町内自治
- 関連自治会合同が効率的 防犯・防火活動
- 関連自治会合同が効率的 境界管理

SS町	ST町	BS町	YK町
<input type="radio"/>			
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

寺院運営・持続化とりくみ

有志による地域活動

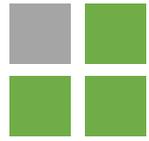
- 寺院の持続化・振興支援・広報支援

所有・管理者の主体的運営

- 広報活動
- 宗教等活動による収益確保
- 寺院経営・運営・管理

こういう整理をして見せても、「個人間でやるべきこと」と一蹴する人も。。。。

有志(個人)による活動または任意団体による実施

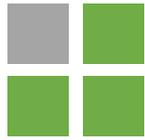


当初の課題（2023年8月）

結局、回覧を回してOKの自治会の会長が有志の建前で月1～2回管理者の池田さんと相談していくことに。。。月1回整備作業をすることで合意。

わがST町は、塔跡に地蔵さんをあずかっている。。。地蔵盆については、自治会としてどうするかをきちんと決めないといけない。

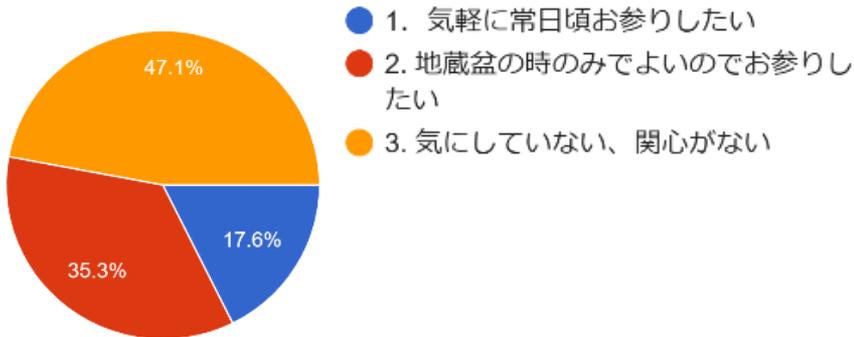
ST町＋地蔵盆を気にされている近隣町（基本的にSS町の一部住民の方）にアンケートや聞き取りを実施することに。。。。



地蔵盆アンケート結果

地蔵様（地蔵堂）へのお参りについては、どのように思われますか？

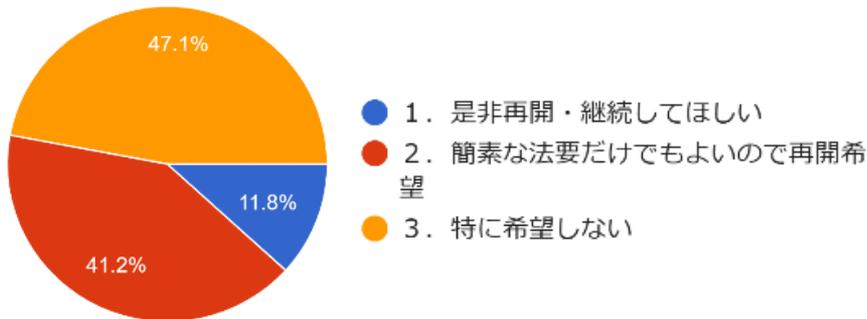
17件の回答



- 1. 気軽に常日頃お参りしたい
- 2. 地蔵盆の時のみでよいのでお参りしたい
- 3. 気にしていない、関心がない

地蔵盆の再開・運営についてはどのように思われますか？

17件の回答

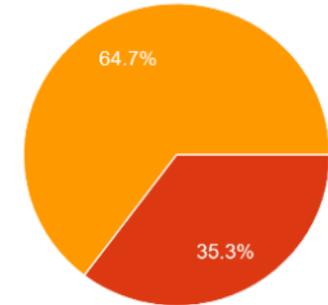


- 1. 是非再開・継続してほしい
- 2. 簡素な法要だけでもよいので再開希望
- 3. 特に希望しない

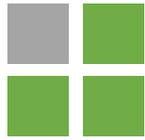
ST町内 再開希望者は住民10世帯中4名のみ。

地蔵盆再開の方向となった場合、運営・準備など、ご協力いただけそうでしょうか？

17件の回答



- 1. フルに協力できる
- 2. 部分的に短時間なら協力できる
- 3. 対応はむずかしい、できない

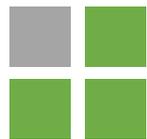


池田住職、ST町自治会での検討結果

【アンケート結果総括】

- 今後地蔵様へお参り希望者、地蔵盆再開希望者はいずれも半数を若干上回る程度。(ただし、ST町内での再開・お参り希望者は10名中4名のみと少数。)
- 地蔵盆再開となっても、手伝いの人手はほとんど期待できない。
- 桜を楽しみにしている人が多いと思うので、限定期間でも開放希望。憩いの場となることを希望する声も。

- ・ 今後の方向性案（住職、管理者、自治会長相談結果）
 - ・ 来年度（2024年7月）より法要のみなど簡素な形で地蔵盆実施。
 - ・ 高齢化や希望者少数により、ST町としての世話当番はもはやできないため、ST町（のみ）を守っていただく地蔵様ではなく、塔跡周辺の皆さん（各戸）をお守りいただく地蔵様として願をかけなおしていただく。「（特定の町を守る）=対象の町がお世話を絶対しないといけないという考え方を変えていく）
 - ・ 2024年の桜の開花時期に向けて、境内整備と拝観受付当番を決めていく。



2023年8、9月以降着手事項

- 毎月のボランティアによる寺域整備・境界整備（外来種、雑雑草・スズメバチ等駆除、施肥や剪定、本堂清掃、コンポストづくりなど）、協力者の方々への入場証発行
- 朱雀の会の方々との交流、整備や拝観受付へのご協力と、彼ら主催ツアーの拝観受入れ
- 除夜の鐘つきの再開と地域の方々の招待
- 塔跡桜開花特別拝観、あじさい開花特別拝観やイベント実施推進、拝観料有料化、本堂開陳に向けての準備・実施
- 上記拝観に合わせ、奈良町にぎわい課様にチラシ配布やプレスリリース投函をご協力いただく。
- 芝突抜町地蔵さんのとりあつかい決定（前出）
- FacebookやLINEの活用で告知実施

多くの方々の助けで進められてこられたと同時に、池田さんも東大寺勤めの休日を返上して中心的存在としてこれらの活動にすべて参加いただいてきました！

素人のみでやった、桜時期の拝観と 桜祭りのイベントは大変だった。。。。

- 平日も含めて2週間の拝観受付当番を募るのは相当困難だった。
- お金のかかること、設備をいじることなどは当然池田さんへリクエストが集中。⇒ 2月下旬から3月20日ころまでお水取り参籠で塔跡に来られない。
- よく気が付いて準備していただいても、コミュニケーションが難しい人もいた。

家にいるから=暇 & ボランティアしてるわけではないです！

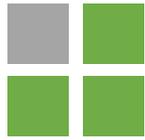


無理のないプランにして、ボランティアに過度の負担がかからないようにしてください！



振り返り

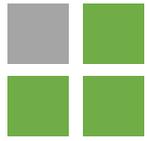
- 「自分のできることだけやる」と割り切っている方と「自発的に無理をしまい不満を言う」方といろいろ。(ほとんど前者ですが)
- 後者のタイプの方には早めにストップをかけるべきだった。
(今回が初めてで皆で試行錯誤してるんだから、そこまで厳しい追及する??とも思いますが)



継続的な課題 (2024年6月時点)

- ボランティアの方々にとってのメリットもより考えた企画の工夫。。。
 - 練行衆の池田さんとのより身近な交流・お水取り秘話の場づくり
 - 雑草取りだけでなく、より園芸を楽しめる活動もおりませ
 - 御霊神社例大祭ボランティアの方々との交流
- 建物・設備の老朽化対応/ 未着手部分利活用
 - 古い電気配線 / 本堂雨漏り・木部の虫食い / 鳥居の腐朽など
 - 習字教室建屋の活用？
- 抜本的な収入改善
 - 文化財（塔跡）の高付加価値観光活用
 - より個々のイベント利用への門戸を開く
- より奈良町に根差した地域との連携
 - 元興寺門前町としてのより一体的なにぎわい創出への貢献
- デジタル広報の強化
 - Xでの発信も実施
 - できれば早めにホームページも。。。。





まとめ・気づき

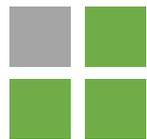
自治会では必ずしも「地域が社寺と共生する」という考えは受け入れられなくなってきている。

自治会に筋を通したうえで、広く関心者の方々に働きかけ、有志を募ったり、観光へも舵取りしないと「持続可能」にならない

中心は寺を管理されている池田さんであり、彼のペースを尊重しながら進める気持ちは大事

遠方の方はまだまだ「極楽坊も塔跡も小塔院も元は同じ元興寺だったが、今や別法人であること」をご存じない。統一した広報や企画も将来的には重要かと。

ボランティアの方々からの良い意見や希望をより取り入れ、お手伝いに来ていただく楽しみをより作っていくことも重要。



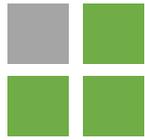
Facebook and Instagram

<https://www.facebook.com/kegon.gangoji>

ページ内に、桜開花時期の当番担当申請グループ、
および塔跡園芸くらの情報グループがあります。

https://www.instagram.com/_gangoji_/





ご参考 1

2024 年度奈良まちづくりセンター定期総会講演会

史料が語る「元興寺塔跡」の歴史

講師:服部光真・元興寺文化財研究所主任研究員

- ・日時:7月15日(月祝)「海の日」の午後3~4時(一般公開)
- ・場所:奈良市中新屋町2-1 奈良町物語館
- ・参加費:500円(懇親会費は別途1500円)
- ・定員:30名
- ・参加申し込みは、公益社団法人奈良まちづくりセンターへ。

(メール nmc@m4.kcn.ne.jp、電話 0742-26-3476、fax0742-27-0969)

服部光真さんより

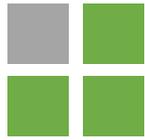
元興寺の五重塔跡と観音堂跡を擁する華嚴宗元興寺は、「元興寺塔跡」として史跡に指定されています。元興寺文化財研究所では、2019年度から4カ年にわたって華嚴宗元興寺で総合調査を実施し、その成果を3冊の報告書にまとめました。

今回は、この調査による最新の成果を踏まえて、塔跡元興寺の歴史と文化財について、奈良町地域との関わりに留意しながら紹介します。

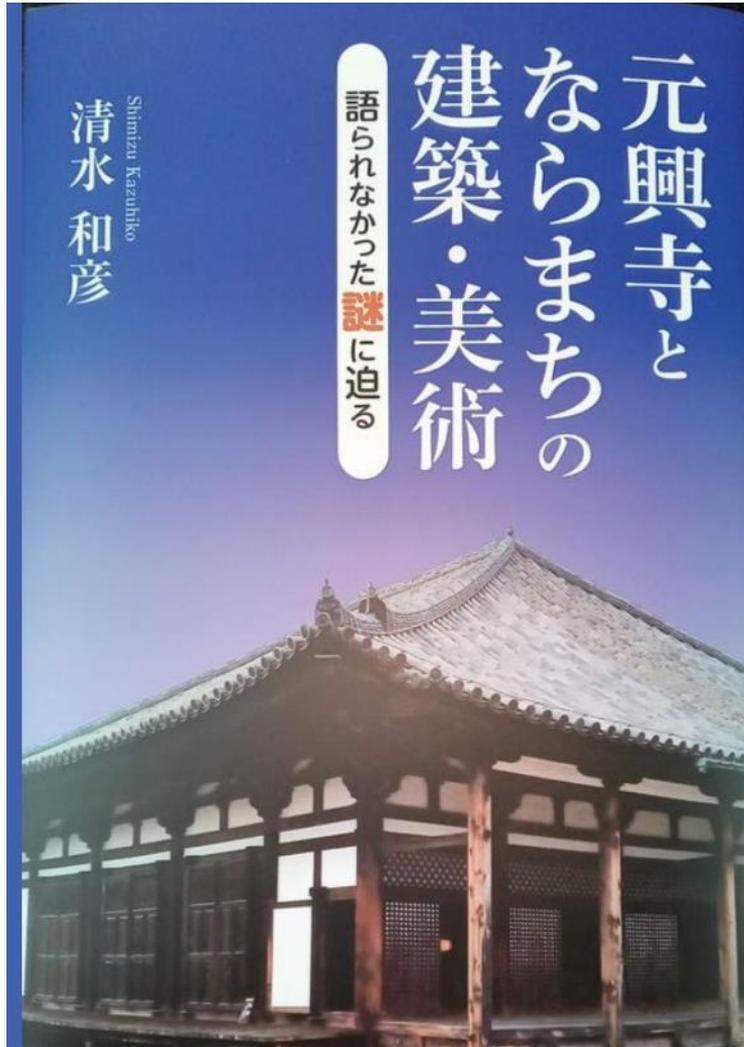


礎石17個が遺る元興寺塔跡の現況





ご参考 2



清水和彦

2023年2月9日 · 🌐



#元興寺 を中心にした「#ならまち」の歴史文化遺産を取り上げた本を出版しました。

幕末に焼失した奈良時代創建の#五重塔の復原をめぐる戦前の忘れられた論争、#国宝五重小塔との関係、国宝本堂と#禅室との間に秘められた[設計]意図を示す基準線と#智光曼荼羅の信仰、#興福寺の国宝#板彫十二神将像.....。

見過ごされたり、残されていたりした問題に新たな視点からアプローチしてみました。

目次

- 第1章 #元興寺五重塔（大塔）の焼失—忘れられた論争と史料を見直す
- 第2章 #五重小塔は西塔の“象徴”として祀られた—大塔との相似から伝来の謎に迫る
- 第3章 #元興寺本堂の「設計」意図の解明—#浄土信仰の秘められたライン
- 第4章 #今西家書院が住宅史上に占める位置—#大乘院御殿移建説を否定して伝来の可能性を探る
- 第5章 #奈良町の#会所のかたち—薬師堂町の会所を中心に
- 第6章 奈良町の#辻子・#突抜を考える
- 第7章 板絵#智光曼荼羅は元興寺の本尊だった
- 第8章 #興福寺の国宝・板彫十二神将像は#元興寺にあった